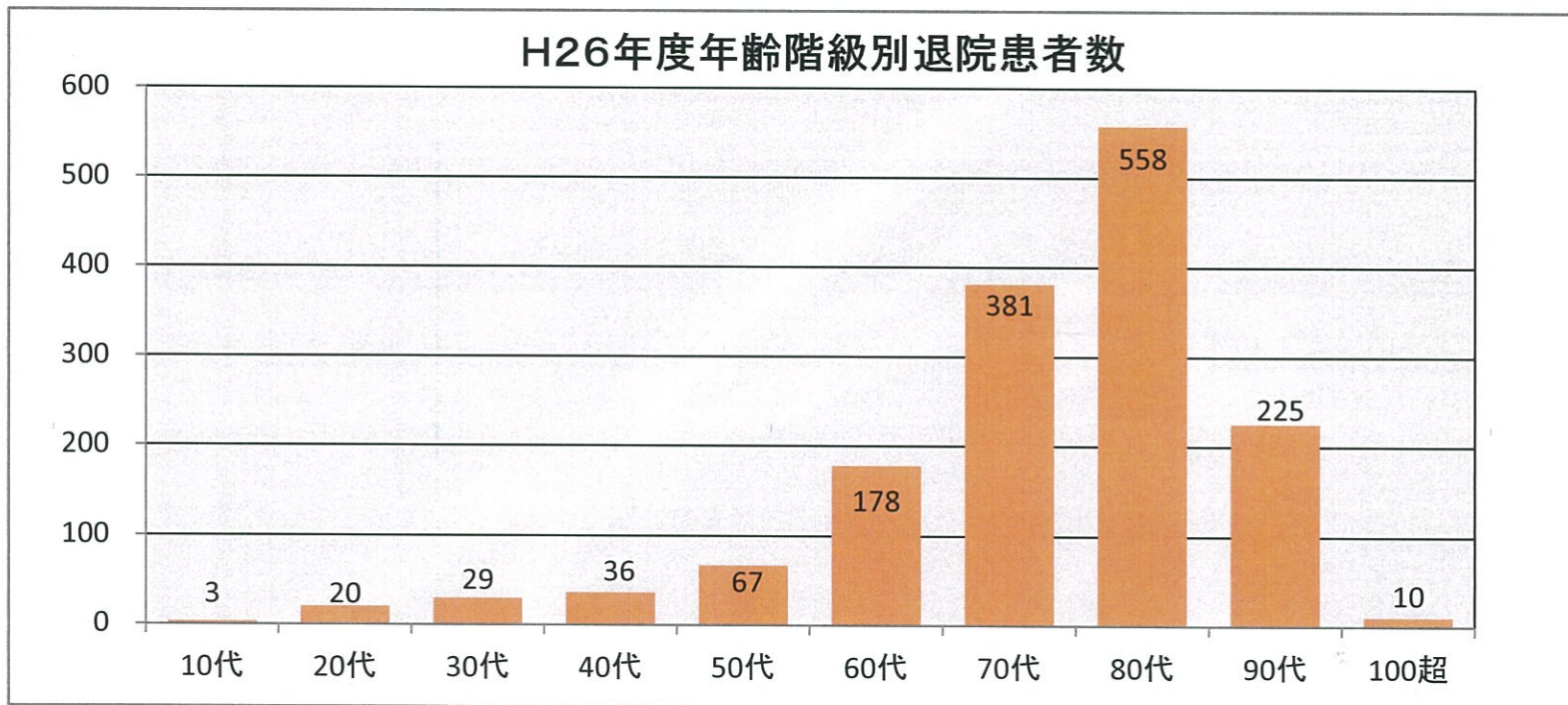


①年齢階級別退院患者数

年齢階層	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100超	総合計
患者数	3	20	29	36	67	178	381	558	225	10	1,507



解説

退院患者様全体の78%が70歳以上の方となっており、特に80歳以上の患者様が全体の53%を占めています。
 地域に根差した高齢者医療の一役を担っており、近隣の病院や医院・施設等とも連携しています。
 急性期治療が終了した後も、医療相談員などが退院後の受入れ先を提案・調整させていただき、安心して退院していただける体制をとっております。

②診療科別症例件数トップ3

●内科

DPGコード	名称	症例数	自院の 平均在院日数 (日)	全国の 平均在院日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
040081XX99X00X	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	146	29.27	調査中	0.27	86.08	なし
040080X099X0XX	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	130	23.45	調査中	0.00	83.19	なし
060100XX03XX0X	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的消化管止血術等 手術・処置2なし 定義副傷病なし	52	3.44	調査中	0.00	66.42	なし

解説

高齢者に多い疾患である肺炎が1位、2位を占めています。

どちらも前年に比べて平均年齢が上がっています。

転院に関しては前年同様、重症化して転院する例はなく、病状が回復後に療養型病院へ移られる方や、近隣の精神科病院から受け入れた患者様が戻る例です。

3位は前年同様、主に大腸ポリープの内視鏡手術後の入院です。ポリープを切除されたら、術後の経過観察のために2～3日入院して頂いております。

当院では、健診・人間ドック部門も充実、内視鏡検査・治療を得意とする常勤内科医師が在籍しており、健診・ドックで「要再検」とされた患者様に速やかに内視鏡検査を受けて頂ける体制をとっております。

大腸ポリープは癌化する可能性が低いいため、早期の治療をおすすめしています。

この疾病に関しては、40～60歳代の現役世代の患者様も多いため、家事・お仕事への支障が少ないよう、短い入院期間での治療をこころがけています。

●外科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日数 (日)	全国の 平均在院日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
180040XX02X0XX	手術・処置等の合併症 内シャント血栓除去術等 手術・処置等2なし	12	2.00	調査中	0.00	74.50	なし
060160X002XX0X	鼠径ヘルニア ヘルニア手術 定義副傷病なし	11	2.82	調査中	0.00	72.45	なし
060035XX99X50X	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置2 5あり 定義副傷病なし	9	3.33	調査中	0.00	58.89	なし

解説

1位は、透析治療中の患者様で、透析用の血管内シャントの中に血栓が出来てしまった場合の治療目的での入院例です。

外科医と連携し、速やかに治療をおこなえる体制をとっております。

2位は鼠径ヘルニアの手術目的の入院例です。2～3日の入院で、平均年齢も比較的若い患者様が多いです。

3位の結腸の悪性腫瘍の入院例は、定期的な化学療法目的の症例です。年齢の若い方が治療を継続されています。「若いからまだ大丈夫。」とは思わず、自覚症状がなくても定期的な健診・人間ドックをおすすめします。

●整形外科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日数 (日)	全国の 平均在院日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
160800XX01XXXX	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	15	43.76	調査中	0.20	84.82	なし
160980XX99X0XX	骨盤損傷 手術なし 手術・処置等2 なし	4	30.75	調査中	0.00	92.50	なし
160690XX99XX0X	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	3	12.50	調査中	0.07	79.25	なし
160800XX97XXXX	股関節大腿近位骨折 その他の手術あり	3	30.33	調査中	0.07	72.67	なし
070080XX97XXXX	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症(上肢) 手術あり 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 あり	3	1.00	調査中	0.00	70.00	なし

解説

高齢の方の転倒に伴う骨折や、骨がもろくなる骨粗しょう症が原因での腰椎・胸椎の圧迫骨折による入院が上位を占めています。
第1位の疾患は、大腿骨の股関節側の骨折で人工骨頭を挿入する手術をうけられた症例です。
第2位は主に転倒や打撲による骨盤周囲の骨折、損傷で安静目的の入院例です。50歳代の方がおられたため平均年齢が下がっています。
第3位は、胸椎や腰椎の圧迫骨折で安静目的の入院例です。骨粗しょう症が原因の症例が多いです。
同3位の股関節大腿部の股関節側の骨折は手術目的の入院、原因は転倒・転落によるものです。今年度はこの疾患に関しては60代、70代のみの患者様だけだったため、平均年齢は昨年度に比べて若くなっています。
同3位の上肢の炎症は、重症の手指の腱鞘炎やばね指の手術目的の入院例です。60歳代、70歳代の患者様で、すべて1日のみの入院でした。
転院例に関しては、入院中に脳血管疾患を発症し、他院脳外科へ速やかに転院していただいた例がありましたが、その他はすべて療養型病院への転院や近隣の紹介元の病院へ戻られた例です。

●眼科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日数 (日)	全国の 平均在院日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
020110XX97XXX0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	125	1.22	調査中	0.00	75.83	なし
020200XX99X4XX	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2 4あり	9	1.90	調査中	0.00	74.11	なし
020230XX97X0XX	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2 なし	9	1.89	調査中	0.00	80.56	なし
020320XX97XXXX	眼瞼、涙器、眼窩の疾患 手術あり	5	1.80	調査中	0.00	84.00	なし

解説

第1位は白内障で眼内レンズを挿入する手術を受けられた症例です。ほとんどが日帰りか一泊入院となっております。
平均年齢も比較的若く、現役世代の方も多いため、お仕事・家事等への支障が最小限になるように短い入院日数での治療に努めています。
第2位は主に加齢黄斑変性症で、薬剤を硝子体に注入する治療の目的で入院される症例です。原則、日帰り入院でおこなっています。
その他は、眼瞼下垂や眼瞼周囲の腫瘍の摘出のための手術目的で、1～3日の入院です。

③初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

単位:例

	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発
胃癌	3	0	1	3	5	2
大腸癌	1	0	2	2	0	3
乳癌	0	0	1	0	0	0
肺癌	0	0	1	0	0	2
肝癌	0	0	0	0	0	2

解説

消化器系の癌については、他院からの精密検査依頼や外来及び入院後の画像検査・内視鏡検査で発見された癌が多くを占めています。多くの場合は、その場で内視鏡的切除をしますが、外科的手術が必要な場合は、内科医と外科医の連携により、早期に手術を受けていただけるよう調整をおこなっています。

必要に応じて手術後の化学療法についても、引き続き当院で受けていただいています。

それ以外の癌については、近隣の医療機関から術後の継続治療として当院で受けていただいている患者様が多いです。日本消化器学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医の資格を持つ常勤医師が在籍しています。

④成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数 (人)	平均在院日数 (日)	平均年齢 (歳)
0:軽度	4	13.00	61.75
1:中等症	59	23.27	83.25
2:重症	46	28.59	85.28
3:超重症	5	23.20	83.20

解説

前年と同様、高齢～超高齢の方で、中等症～重症の症例が多く、重症度と平均在院日数・平均年齢ほぼ比例しています。

平均在院日数は、「2:重症」、「3:超重症」例で前年より短縮されています。

高齢・重症の患者様でも早期に適切な治療、早期離床のためのリハビリテーションを積極的におこない、スムーズな退院調整を心がけて多くの方が軽快退院されるよう努力しております。

また、在院日数を短縮するということは、効率よく急性期の患者様を受け入れる体制を整えているということです。

⑤脳梗塞のICD10別患者数

ICD-10	傷病名	発症日から	症例数 (件)	平均在院日数 (日)	平均年齢 (歳)	転院率 (%)
G45 \$	一過性脳虚血発作および 関連症候群	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
G46 \$	脳血管疾患における 脳の血管(性)症候群	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I63 \$	脳梗塞	3日以内	14	28.86	82.64	0.00%
		その他	5	59.40	86.20	0.00%
I65 \$	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I66 \$	脳動脈の閉塞及び狭窄、 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I675	もやもや病くウイリス動脈輪 閉塞症	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I679	脳血管疾患、詳細不明	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%

解説

脳梗塞の急性期治療に関するデータを病型別に算出しています。
脳梗塞で入院された方のみで、発症日3日以内の入院の場合は、発症後の速やかな注射薬による薬物療法、リハビリテーションの導入により平均在院日数が短くなっています。

⑥診療科別主要手術の術前、術後日数 症例数トップ3

●内科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均 在院日数 (日)	平均 術前日数 (日)	平均 術後日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K721-21	内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径2cm未満）	91	11.69	5.89	5.80	0.13	70.36	なし
2	K7211	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	27	3.89	1.74	2.15	0.00	68.00	なし
3	K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術を含む）＜内視鏡下＞	17	69.00	38.00	31.00	0.13	83.71	なし

解説

前年同様、内視鏡を使用した、結腸・大腸ポリープ切除術を多くこなっています。
 平均年齢は前年と比較して上がっていますが、平均在院日数は、「1位：大腸ポリープ切除術」で短縮されています。
 ほとんどの方が予定入院後、2～3日で退院されていますが、他の疾患で入院中の方が、貧血の精査等で大腸内視鏡検査をして、ポリープが発見され、そのまま手術となるケースも含まれるため、このような在院日数となっています。
 また前年同様、内視鏡による胃瘻造設術も多く実施しております。メリットは、残存した消化機能を生かし、効率よく栄養を摂取できること、高齢患者様にとっては開腹手術に比べて、身体への負担を最小限に抑えられること等があげられます。
 退院後、転院となる患者様は、急性期疾患の治療を終えて療養型病院へ転院される方や、近隣の精神科病院から紹介入院となった患者様が紹介元の医療機関へ戻られる形態の転院となっております。

●外科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均 在院日数 (日)	平均 術前日数 (日)	平均 術後日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K608-3	内シャント血栓除去術	12	1.33	0.17	1.17	0.00	74.50	なし
2	K6335	鼠径ヘルニア手術	11	2.82	1.82	1.00	0.00	72.45	なし
3	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	10	9.10	3.40	5.70	0.00	60.10	なし

解説

透析治療中の方が、内シャントに血栓ができてしまう場合が少なからずあり、速やかに血栓除去術をおこなえる体制を整えております。
 鼠径ヘルニア手術は2～3日の入院期間で、手術の翌日に退院されています。
 腹腔鏡下での胆嚢摘出術も、体への負担が少ない(術創が小さい、術後の回復が早い)というメリットがあり、開腹術に比べて短い日数で退院することができて、家事・お仕事への支障が減らせます。

●整形外科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均 在院日数 (日)	平均 術前日数 (日)	平均 術後日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K0461	骨折観血的手術（大腿）＜内固定を行なう＞	8	42.25	7.38	34.9	0.13	86.8	なし
2	K0811	人工骨頭挿入術（股）	5	40.00	5.20	34.8	0.07	84.2	なし
3	K0731	関節内骨折観血的手術（股）＜内固定を行なう＞	3	29.33	4.67	24.7	0.07	73.0	なし

解説

前年同様、高齢の方が転倒後、大腿骨を骨折して入院・手術に至る症例が多いです。
 転院された方は、紹介元の病院へ戻った方と、高齢でしばらくリハビリが必要ななどの理由で療養型病院等へ転院された方です。
 自院でも、術後のリハビリテーションを積極的におこない、ADL低下の予防に努め、多くの方が軽快退院されています。

●眼科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均 在院日数 (日)	平均 術前日数 (日)	平均 術後日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K28210	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他）	125	1.22	0.40	0.82	0.00	75.83	なし
2	K2193	眼瞼下垂症手術（その他）	10	1.50	0.60	0.90	0.00	80.40	なし
3	K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） （長径2cm未満）	3	1.00	1.00	0.00	0.00	87.00	なし

解説

高齢者に多い、白内障の手術（水晶体再建術）を多く実施しています。
1～2日の入院がほとんどで、家事・お仕事への支障が少ないよう、短い入院日数での治療をめざしています。
常勤医師と非常勤医師との連携で、安定して手術ができる体制になりました。（症例数：前年より増加）

⑦その他

	最も医療資源を投入した疾患	入院契機疾患	患者数 (件)	発症率 (%)
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	1	0.07
		異なる	3	0.20
180010	敗血症(1歳以上)	同一	2	0.13
		異なる	5	0.33
180035	その他真菌症	同一	0	0.00
		異なる	1	0.07
180040	手術・処置等の合併症	同一	20	1.33
		異なる	1	0.07

解説

これらの疾患は、治療を困難にさせる難治性の感染症等です。
 当院には認定感染制御医の資格を持つ常勤外科医が在籍しており、感染防止委員会及び勉強会を定期的に行っています。
 感染症等の予防に努め、治療をおこなっています。